



市立病院だより

ほほえみ

発行 越谷市立病院
 発行人 院長 丸木 親
 編集 院内情報誌編集委員会
 連絡先 〒343-8577
 越谷市東越谷10-32
 電話 048-965-2221(代)
 F A X 048-965-3019
 発行月 令和4年(2022年)1月
 (No.50)

コロナ禍への当院の対応

院長 丸木 親
まるき ちかし

この原稿を書いている時点では、第5波も収まり、新型コロナウイルス感染患者数は収束に向かっているように思います。

当院はどのように、このパンデミックに対応したのか、少しお話をさせていただきます。

令和2年3月くらいから、当院は感染症指定病院ではありませんが、保健所から「新型コロナウイルス感染患者を受け入れてください」「や「PCR検査をしてください」などの要請が入るようになり、私は当惑していました。令和2年4月になってやっとこれは埼玉県知事が主導し、県に対策本部を設けて全県レベルで対応すべき緊急事態と理解できました。

当院は東埼玉地区でいち早く、一病棟をつぶして「15人」までの中等症以下の患者さんを受け入れることとしました。

素早い決断が出来た背景には、当院のスタッフが公立病院で働く者として、公務員としての責任を普段から持っていてくれたことがあり、院長として涙が出るほど嬉しかったのです。

自治体の危機にあつて、全く役に立たない病院であれば、その病院は必要がない自治体病院です。もしそうなら私はこの病院を辞めていたと思います。

当院呼吸器内科の先生方が中心となって、新型コロナウイルス入院患者さんに対応をしてくださり、地域総合診療科の医師が毎日保健所から依頼されるPCR検査を外来でこなしてくださりました。



当初は当院ぐらいいしか、この近辺ではPCR検査や入院ができる場所がなかったのです。看護スタッフ、検査対応のスタッフも勇気を持って、防護服を着けて対応してくれました。その結果、コロナ病棟の看護師2名が感染しましたが、幸い軽症で済んでいます。

その後、病院内でクラスターを発生させることもなく、職員等で感染した者、濃厚接触者となった者も若干おりましたが、大きな人的または病院運営上の被害には至りませんでした。

日頃からの当院感染管理スタッフを改めて優秀なのだなどと再認識した次第です。

ただ、当院の患者さんが重症化した場合には、より高次の救急センターなどをお願いしなくてはならず、重症患者に対応できる病室がなかった事を悔やんでいます。

今後は当院でも重症患者に対応できる最低限の病床は必要となるでしょう。まだまだ油断はできませんが、長い戦いに皆正直なところ疲れ気味ではありません。

しかしこのような中、クラスターを発生させず、なんとか通常診療を行えております。

私は本当にスタッフに恵まれた院長だと思っております。皆さんもどうかこの病院のスタッフを褒めてあげて欲しいと思います。

ウイズコロナで想うこと

看護部長

高橋 たかはし

尚美 なおみ

新型コロナウイルス(以下、コロナ)の流行初期はそれほど怖いという感覚は無く、日本にはあまり影響なく終わるものと思っていました。

しかし、タレントの志村けんさんがコロナで急逝され、志村さんのお兄さんは死目に逢うこともできず、遺骨を持ち帰る報道を見て、なんだか分からない怖さと不安を感じたことが思い出されます。

まさか中国の武漢で発生したコロナが世界中に蔓延し、医療崩壊という状況にまでなるとは思っていませんでした。甘く考えていたのです。

コロナ感染が疑われる方々の受診が増え、PCR検査、コロナ対応専用病床の設置、病棟再編成、陰圧テントの設置、衛生材料等の物資不足など、通常業務に加えて、コロナに対応するための業務量が増加していきました。

病院機能を継続するため、担当セクションを超えた応援体制を組み、状況の変化に合わせて市立病院スタッフ全員で乗り越えてきました。

感染予防対策の強化は、感染領域の専門的知識を持つ看護師が中心となり、感染予防対策、感染発生時の対応、国の方針に合わせ院内における感染予防基準作成など多岐にわたる活動により、院内クラスターを起こすことなく経過していきました。

県内の予防接種率は、1回目78.0%、2回目76.7%(令和3年12月4日現在)というデータが出ています。ワクチン接種が進んだ効果が出ているのか、デルタ株による急激な感染拡大は収まりを見せています。

しかし、接種が済んだから感染しないという保証はなく、第6波がいつ襲ってくるのか、先が見えない状況の中、終息が宣言されるまで引き続き感染対策を継続することは必要だと考えています。

クリミアの天使と呼ばれたナイチンゲールは、傷病兵が運ばれ地獄と言われた陸軍病院で、皆が絶望感を持っていた中、優しい灯りをかかげ傷ついた兵士たちを看病し、劣悪な療養環境を整備しました。その結果、陸軍病院の死者はゼロになったという話を思い出しました。

コロナ禍の中、患者さんに「安全な療養環境を提供する」という当たり前なことは、簡単ではなくなりました。

スタッフは感染状況に合わせた組織ルールの変更、人手不足、病棟再編などを経験し、大きな負担を感じている事でしょう。

現在も、いろいろな制限を継続されている中で、患者さんとご家族の対応には、普段と異なる難しさを感じていることと思います。

ストレスやネガティブな感情に、押しつぶされそうになることもあるでしょう。

でも私たちは、ナイチンゲールのように困難な状況に負けず、優しい灯火になれるような存在でありたいと思います。

ウイズコロナ時代をチーム一丸となって乗り越えていきましょう！

◆市立病院よりお知らせ◆

かかりつけ医から外来予約できることをご存じですか？

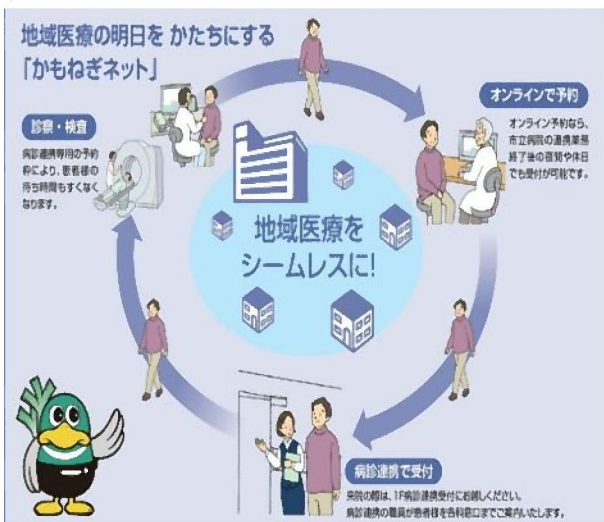
当院の外来診察のご予約をしていたくには、かかりつけ医から当院にお申込みいただく必要があります。

これを病診連携予約といい、待ち時間や診察時間の短縮につながる、患者様にとってメリットの大きい仕組みです。

病診連携予約には、FAXによる手続きと「かもねぎネット」による方法があります。

「かもねぎネット」はインターネットを利用した予約システムで、利用を希望する地域の医療機関に提供しています。

当院を受診される際は、病診連携予約についてかかりつけ医にご相談ください。



上図:「かもねぎネット」について

コロナ禍における

病院運営について

事務部長

はやま ひろゆき
早山 裕之

政府による3回の緊急事態宣言が発出され、収束の見えない状況の中で、当院は外来及び入院診療を継続しつつ、万全の感染対策を講じ院内クラスター等を起こすことなく、令和2年度は1年間で合計231人のコロナ陽性患者を受け入れてきました。

そうした中での収益や患者数に関しては、対前年比で㊶入院収益は「約5億8千万円」の減、患者数は「約1万6千人」の減、㊷外来収益は「約1億円」の減、患者数は「約2万2千人」の減となりました。

入院・外来を合わせると、収益は「約6億8千万円」、患者数で「約3万8千人」の減となっており、令和元年度の当院の純損失が「約8千700万円」だったことと比べても、いかに大きな影響があったかは明白です。

この主な原因は、当初不要不急の手術・検査を控えたことや、患者に受診控えの心理が働いたことでもあります。一番大きいのは8-1（呼吸器科）病棟46床をすべて潰して、コロナ専用病床15床を確保したことによるベッド稼働率低下によるものです。

これに対し、国や県からはコロナ患者を受け入れることによる支援があり、最も大きなものは県の確保（休止）病床支援補助金、「約10億6千万円」でありました。

これにより、減収分を上回る補助金のおかげで、差し引き「約3億円」程度の純利益をあげることとなりました。

しかし、これは冒頭述べたように、感染対策を徹底し、最前線の医療現場で特に呼吸器科の医師や8-1病棟の看護師等がまさに命を削りながら新型コロナウイルスに対峙してきた結果であると考えており、感謝の念に堪えません。

今後については、医療従事者には年内に3回目のワクチン接種が予定されていますが、未知の変異ウイルスに対する懸念もありますし、この原稿を書いている時点で、令和4年2月頃には東京で感染者数1日1万人を超える「第6波」が来るといふ予測も出ています。

当面はこうした状況が継続していくであろうと想定しており、ウィズコロナの時代に対し、引き続き地域の基幹病院として、また公立病院としての役割を十分認識しながら、病院職員一致団結し地域住民に信頼されるような病院運営に努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



◆ナインテールとは？◆

フロレンス・ナインテール（1820～1910）はイギリスの看護師であり、フランスやイギリスとロシアがクリミア半島などを舞台に行われた「クリミア戦争」を看護師として従事。

敵・味方の分け隔てない負傷兵たちへの献身を行い「クリミアの天使」と称された。

また、統計に基づく医療衛生改革を行い、彼女の誕生日である「5月12日」は、国際看護師協会により、「国際看護師の日」と定められており、後世に多大な影響を残した。



編集後記

院内情報誌編纂委員長

おぼさわ はなこ
尾羽澤 英子

新年あけましておめでとうございます。

コロナによる最初の緊急事態宣言が発令されて2年が経とうとしています。

良くも悪くもいろいろなことを学んだり、気付かされたことが沢山ありましたね。

今年は北京冬季オリンピック・パラリンピックの開催年です。

東京2020にすぐ続く世界的スポーツイベントが毎年見られるなんて「ハッピー！」と思えるのは私だけでしょうか？

すこしずつ前向きなことに眼を向けて、心と体の健康を鍛えましょう。

うがいや手洗いはしっかり行って予防に努め、2年連続のオリンピッククイヤーを楽しみましょう！！